

# 第36回西日本岩盤工学シンポジウムwith 第2回岩の力学に関する若手研究者会議報告

岩の力学に関する若手研究者会議 幹事 愛媛大学 安原英明  
西日本岩盤工学研究会 幹事 熊本大学 佐藤 晃  
やろう会 会長 鳥取大学 奈良禎太

## 1. はじめに

平成27年9月4日(金)、5日(土)に、火の国ハイツ(熊本市)で開催された『第36回西日本岩盤工学シンポジウムwith第2回岩の力学に関する若手研究者会議 in 熊本』についての報告を行う。

## 2. 開催趣旨

36回目を迎えた西日本岩盤工学シンポジウムでは、一泊二日の寝食を共にし、じっくりと時間をかけて参加者が岩盤工学についてディスカッションすることが本シンポジウムの大きな目的である。本年度は、第2回岩の力学に関する若手研究者会議とのジョイント開催であった。「岩の力学に関する若手研究者会議」では、土木工学、資源工学、地質学などをバックグラウンドとして岩石力学・岩盤工学に携わる新進気鋭の若手科学者・技術者(概ね40歳以下の研究者:博士課程学生を含む)が、自らの研究を報告する場を提供している。現在、岩盤工学の分野では、解決すべき課題は複雑・大型化しており、研究者各人が実施できる研究は限界がある。そのため、異分野研究者間の連携は不可避である。そこで、今後の十分な連携が実現することを視野に入れ、異なるフィールドで活動している若手研究者が連携できる場を提供することが本会議の最大の目的である。本年度は、昨年度に引き続き2回目の開催であった。

## 3. プログラム

以下に、第36回西日本岩盤工学シンポジウムwith第2回岩の力学に関する若手研究者会議のプログラムを記す。

### 【1日目:平成27年9月4日(金)】

12:50-13:00	開会挨拶・趣旨説明
13:00-14:15	西日本岩盤シンポ(セッション①)
14:15-14:30	休憩
14:30-15:45	西日本岩盤シンポ(セッション②)
15:45-16:00	休憩
16:00-17:00	西日本岩盤シンポ(セッション③)
17:00-17:10	休憩
17:10-18:10	特別講演
19:30-	懇親会

### 【2日目:平成27年9月5日(土)】

09:00-10:15	若手研究者会議(セッション①)
10:15-10:30	休憩
10:30-11:45	若手研究者会議(セッション②)
11:45-13:00	昼食
13:00-13:45	若手研究者会議(セッション③)
13:45-14:00	閉会挨拶

参加者:57名



写真-1 参加者による記念撮影

#### 4. 報告および今後の予定

ジョイントシンポジウム1日目(9月4日(金))は、主に西日本岩盤工学シンポジウムの発表会であった。発表件数は、学生(九州大学、山口大学、長崎大学、岡山大学、熊本大学)を中心に13件であった。トンネルの施工・計測に関する土木工学的な発表から、露天掘り鉱山に関する資源工学・地質工学的な発表など様々な研究が紹介された。口頭発表の後は、大学教員だけでなく学生からも多くの質問があり、熱のこもった活発な議論が展開された。発表した学生にとっては、貴重な経験を得られたと思う。また、一般発表に引き続き、御船恐竜博物館池上直樹氏より、白亜紀中頃のアジア東岸に生息した恐竜についての特別講演があった。約1時間の講演は興味深い話ばかりで、参加者は貴重な情報を得ることができた。まさに目から鱗であった。予定を大幅に超過したシンポジウム1日目終了後は、参加者全員がお楽しみの懇親会である。ジョイントシンポジウムの参加者は計57名で、学生、大学教員、公的機関および一般企業の研究者と様々であった。懇親会一次会は、熊本の美味しい料理に舌鼓を打ち、参加者全員が大学・企業の違いを超えて団欒してあっという間に時間が過ぎた。二次会では、一つの大部屋で車座になってそこで議論が展開されていた。参加者全員にとって貴重な時間を得られたと思う。



写真-2 発表会場の様子

2日目(9月5日(土))は、主に岩の力学に関する若手研究者会議の発表であった。発表件数は、13件で、放射性廃棄物地層処分に関する研究が最も多く、その他、溶液型グラウトや極低温下の岩盤物性に関する研究などが紹介された。研究は、室内試験、現場計測、数値解析など多岐に渡っていた。発表では、各自が研究テーマを紹介するだけでなく、今後実施したい研究や研究協力できる内容の報告がなされた。一般的な学会発表とは異なり、研究成果のみを紹介する場ではなかったため、参加者も自由な発表を行っていた。新進気鋭の若手研究者の発表であったため、最先端の研究も多く、非常に活発な議論が交わされた。参加学生も熱のこもった議論から何かを感じることができたと思う。会議では、共同研究を実施できる芽がここここで感じられ、参加者の中で実際に共同研究が開始される雰囲気が醸成されてきた。今後、第3回、4回と続いていく中で、この会議をより活発化させ、異分野若手研究者のネットワークを強固にしていくことが課題である。



写真-3 活発な議論の様子

最後に、本会議開催にあたり岩の力学連合会から資金援助を戴いた。末筆ながら御礼申し上げる。戴いた援助金と参加者からの参加費は、会議の運営に使用させて頂いた。なお、第3回若手研究者会議は、2016年度の岩の力学国内シンポジウムと共同で開催する予定である。英語セッションの開催などを通して、アジアの若手研究者とのネットワーク強化も今後の課題である。



写真-4 懇親会の様子